

9 妻恋通信

この話を実話と思われぬよう
これだけは言うておこう
つい最近の でっちあげ
極めて純然たる 嘘八百だ

さてジョウンズは新婚ほやほやの妻に家を守れと言い残し 軍務に就いた
アフガニスタン国境の北にある ハラム丘陵に急ぎ登った
回光通信機をかまえ岩に腰掛けた 家を出る前に妻に教えておいた
長距離など屁とも思わぬ 信号解読のノウハウを

愛の女神がジョウンズを賢くし 造化の匠^{ぞうけ たくみ}が妻を美しくした 5
かくてキューピッドとアポロンが 二人を回光通信機で結んだのだ
夜明けには ハラム丘陵越しに賢明なる忠言を妻に送った
夕べには 沈み行く陽の光で 妻に訓戒を運んだ

ジョウンズは妻に 赤い軍服金ピカの好き者士官に注意しろと言った
同様に 年寄りの親父めいた甘言にも気をつけろと言った 10
とりわけ 重大な警告を送り続けた（ここで一節小唄^{ふし}の文句）
あの白髪頭の色事師ロザリオさながらのバングズ中將は要注意と

そのバングズ中將さん 副官従え幕僚連れて 威張りくさっておでした
中將さん 通信機がせわしくなく光るのを見た
こりゃきつと国境紛争だ 駐屯地が襲われ焼かれているぞ 15
そこで信号を解読せんと停まった 其はかくのごとし

「ピカピッピッ ピッ ピッピカ ピッピカピッ」と二回発信
中將さん怒った「これまで将官に『ねえ お前』と挨拶した奴などおるか
『愛しいお前』だって！ 『アヒルちゃん』だと忌々しい 『ダーリン可愛子ちゃん』！
ウルズリー元帥閣下の御霊^{みたま}にかけて 山のてっぺんにいる奴はどこのどいつじゃ」 20

気の利かぬ副官押し黙り 金ピカ幕僚声もなし

笑いをこらえて 山からのメッセージを解読した

夏の夜の稲妻のごとくはっきりと 亭主の警告が走る

「バングズ中将与ダンス厳禁 馬乗り厳禁 奴は名うてのすけべ爺^{じい}だ」

（夜明けごろ ハラムの丘越えて 夫は妻に忠言を送った

25

だが愛は盲目と言えど 世間の人にや目ってもんがある）

悪口をピカピッピーで 妻に送り続けた

中将さんの私生活の愉快的な裏話を

気の利かぬ副官は押し黙り 金ピカの幕僚声もなし

中将さんの剃り上げた面^{つら} 赤くさらに赤くなる

30

ついに言ったこの言葉 （中将さんの気持など知ったことか）

「ホットラインを傍受したぞ おい三名であそこへ行け 駆け足だ」

バングズ中将さんは太っ腹 ジョウンズはその後も知らされることはなかった

口頭でも文書でも 信号を解読した者が誰だったかを

だがこの話 国境地域をミチニーからムールタンにまでも広がった

35

皆さんもうご存知 あの立派な中将さんが「名うてのすけべ爺^{じい}」だということを

(榊井幹生訳)